

学部名	生活環境学部
学科名	生活文化学科

生活環境学部のディプロマポリシー	生活環境学部のカリキュラムポリシー	生活環境学部のアドミッションポリシー
<p>【学部の教育理念】 奈良女子大学生生活環境学部は、生活に根ざした理論と実践の総合的学知を提供し、主体的でリーダーシップを発揮できる人材を育成することを目指しています。教育内容は、生活の根幹である衣食住を基盤として、心身の健康・情報・文化などの多様な分野にまで及びます。学際的な教育を通じて、生活に関する専門的知見と生活の質の向上に向けた新しい発見と創造を生み出す力を持ち、個人、家庭そして社会の生活を主体的に創造できる能力を持った人材を育成します。</p>	<p>【生活環境学部のカリキュラム構造】 生活環境学部のカリキュラムは教養教育科目と専門教育科目から構成されています。教養教育科目ではグローバルな視野を培う外国語科目、健康な生活の基礎づくりとなる保健体育科目が必修となっているほか、幅広い教養と創造性を身につけるための教養科目を提供しています。専門教育科目では初年次科目として生活環境学の全体像や各学科・コースで学ぶ内容を概論的に理解するための学部共通科目と学科共通科目、専門的知見を修得するための科目として学科専門科目とコース専門科目を開講しています。各学科・コースとも生活環境学部における学修の総括として、卒業研究を通じて、自身の専門分野に関する研究を深め、成果発表することを卒業のための必修要件としています。また、大学院に進学して更に研究を深めたいという意欲のある学生に対しては大学院開講科目の先取り履修を認める6年一貫教育プログラムも提供しています。</p>	<p>【生活環境学部の教育理念】 生活環境学部は、生活に根ざした理論と実践の総合的学知を提供し、主体的でリーダーシップを発揮できる人材の育成をはかることを目指しています。教育内容は、身体や性にはじまって、衣食住に関わるあらゆる問題に及び、さらには地域や世界の環境問題までも射程に収めています。このような幅広い教育を提供するために、生活環境学部は文理融合型学部として、食物養学科・住環境学科・情報環境学科・心身健康学科・生活文化学科の5学科から構成されています。学科の性格が多様であることに伴い、教育方法もまた理論・比較・調査・実験と多岐にわたります。しかし、生活環境学の総合的教育という学部理念に即して、つねに生活者の視点を失わないことを重視しています。生活者の視点とは、利用者・消費者といった立場からの批判と改善の視点であり、わたしたちの生活の質の向上に向けた新しい発見と創造を生み出す視点です。生活環境学部は、各学科の教育目的に応じて専門性を高めるだけでなく、学科を超えた学際的な教育を通じ、領域横断的でグローバルな視野をもって問題解決をはかる人材を養成したいと考えています。</p>
<p>【身につけるべき「資質・能力」】 ・生活環境に関わる専門的知見と幅広い教養を持ち、生活を主体的に創造する能力。 ・生活の諸問題について生活者の視点より分析理解し、その解決に積極的に挑戦する能力。 ・自律的な行動と判断を行い、他者と柔軟なコミュニケーションを築き、個人、家庭そして社会の生活をリードできる能力。</p>	<p>【教育の内容と方法】 生活環境学部の教育内容は生活の根幹である衣食住を基盤として、心身の健康・情報・文化などの多様な分野にまで及びます。幅広い教育内容を反映して、教育方法もまた理論・比較・調査・実験と多岐にわたります。多岐で多様な教育を通じ、専門性を高めるだけでなく、領域横断的でグローバルな視野をもって主体的に生活の問題解決をはかる人材を養成したいと考えています。</p>	<p>【生活環境学部が求める学生像】 上記の教育理念にもとづき、生活環境学部は次のような資質及び意欲をもつ学生を求めます。 (1) 幅広い関心と各学科が必要とする基礎的学力をもつ。 (2) 生活者の視点をもつリーダーあるいは主体的・能動的な生活者になることを目指している。 (3) 日常生活に対する感受性と洞察力にすぐれ、豊かな想像力をもって他者との共生・協働をはかり、社会的弱者や文化的背景を異にする他者への共感をもつ。 (4) 社会のリーダーあるいは主体的生活者となるために、課題発見能力・問題解決能力・論理的思考力の開発に積極的に取り組む意欲をもつ。 (5) 各学科の教育理念に即したカリキュラムを真摯な姿勢で学び、学んだ成果を、専門職・企業人・公務員・教員等として積極的に地域や社会に還元したいという意欲をもつ。</p>
生活文化学科のディプロマポリシー	生活文化学科のカリキュラムポリシー	生活文化学科の学習成果
<p>【学位授与の前提となる教育理念】 生活文化学科は、女性リーダーに必要な教養を身につけ、広い視野と専門的スキルの両者を兼ね備えた人材を育成します。人間生活を支える多様な価値観を理解して、うまくコミュニケーションするスキルを学び、様々な社会生活課題に専門的知識で取り組み、社会に貢献できる人材を育成します。</p>	<p>【基本的なカリキュラム構造】 教養教育科目と専門教育科目に大別されます。前者は基礎科目群と教養科目群に別れており、後者は、学部共通科目と学科専門科目に区分され、それぞれのカテゴリから履修します。学科専門科目は、多彩な分野横断的科目を、基礎と発展的内容に分けて学年進行に合わせて設置しています。また課題発見・解決のためのデータ収集や分析スキルを学ぶための科目も2年次から設置し、コミュニケーション能力の涵養については初年次からアクティブ・ラーニング科目を設置しています。大学院に進学して更に研究を深めたいという意欲のある学生に対しては大学院開講科目の先取り履修を認める6年一貫教育プログラムも提供しています。</p>	<p>(◎=学習成果を上げるために履修することが特に強く求められる科目、○=学習成果を上げるために履修することが強く求められる科目、△=学習成果を上げるために履修することが求められる科目)</p>

【身につけるべき「資質・能力」】		【教育の内容と方法】		教養	専門性	創造性	
<ul style="list-style-type: none"> ・教養教育科目および専門教育科目を通じて、社会における様々な事象に対し、人文・社会科学の分野横断的な視点から物事を捉える能力を身につけている ・高いレベルの専門的知識およびそれらを体系化する論理性、客観性を身につけている ・主体的学習者として、問題を発見し、その解決に向けた取り組みを卒論としてまとめる能力を身につけている ・習得した知識、論理性、分野横断的なアプローチなどの能力を社会の中で役立てる際に必要となるプレゼンテーション能力を身につけている 		分野の広さも大きな魅力ですが、それぞれの分野からたとえばジェンダー研究を学ぶというようにテーマを絞りつつ多角的な視点を確保するという学び方もできます。また、少人数教育も特色と言えます。何についてどう研究するか教員と相談しながら自分で決めていくのです。		社会における様々な事象に対し幅広い知識を身につけ、人文・社会科学の分野横断的な視点から物事を捉える	高いレベルの専門的知識およびそれらを体系化する論理性、客観性を身につける	主体的学習者として、問題を発見し、その解決に向けた取り組みを研究計画としてまとめる能力を身につける	習得した知識、論理性、分野横断的なアプローチなどの能力を社会の中で役立てる際に必要となるプレゼンテーション能力を身につける
カリキュラム							
科目番号	授業科目名	学習目標	対象学生	開講期			
	教養科目群：大学生生活入門・パサーージュ	<ul style="list-style-type: none"> ・高校までの学習とは異なる、大学ならではの学びとはどのようなものか理解する。 ・奈良女子大学の教員が行っている研究の最先端に触れ、学問の世界を体験する。 	1回生以上		○		
	教養科目群：人間と文化	人間と文化に関する幅広い知識を体系的に理解する。 柔軟かつ論理的に思考する力を身に付ける。 自ら課題を発見する力を身に付ける。	1回生以上		○		
	教養科目群：生活と社会	生活と社会に関する幅広い知識を体系的に理解する。 柔軟かつ論理的に思考する力を身に付ける。 自ら課題を発見する力を身に付ける。	1回生以上		○		
	教養科目群：人間と自然	人間と自然に関する幅広い知識を体系的に理解する。 柔軟かつ論理的に思考する力を身に付ける。 自ら課題を発見する力を身に付ける。	1回生以上		○		
	教養科目群：グローバル教育科目	異なる文化や価値観に触れ、国際性の涵養と外国人とのコミュニケーションをとる力を身に付ける。	1回生以上		○		
	現代社会と職業	キャリア教育全体の基礎となる科目。働きつつ生きることの意味や、その舞台としての現代社会の仕組みを理解する。	1回生以上		○		
	外国語科目	ボーダーレス化、多極化する世界の中で、様々な情報源から現在を読み取り、そこでの自分の位置と進路を見定める力を身に付ける。 言語を通じて異文化への理解を深め、コミュニケーション能力を向上させる。	1回生以上		○		
	健康運動実習	<ul style="list-style-type: none"> ・運動・スポーツの実践が健康の維持・増進に与える効用について理解する。 ・体力測定や各種調査の自己分析を通じて自らの身体への理解を深める。 ・仲間とのコミュニケーションをはかり、主体的に運動・スポーツにかかわる態度を身につける。 	1回生以上		○		
	情報処理入門	<ul style="list-style-type: none"> ・情報倫理と情報セキュリティの考え方を身につける ・様々な情報システムを安全かつ有効に使う方法を理解する 	1回生以上		○		

3100001A1	生活環境学 原論	・生活環境学とは何か、学問体系とその内容について理解する ・生活を取巻く自然・社会環境問題を把握する ・生きる哲学と生活科学について考える	1回生以上	後期	○			
3100002A2	育児学	①子どもの心身の成長、発達を知る。 ②子どもの病気や事故について学び、予防について考える。 ③子どもをとりまく生活環境について学び、より望ましい家庭のあり方について考える。 ④子育てをめぐる諸問題や児童福祉に関する行政施策や支援を学び、乳幼児期の保育のあり方について自らの考えを述べるができる。	2回生以上	前期	○			
3100004A1	家庭機械・ 家庭電気・ 情報処理	◎生活機器の作動原理、構造等を理解し、安全に利用できる(知識・理解、汎用的技能)。 ◎電気機器に必要な電気の基礎、構造、作用等を理解し、安全に利用できる(知識・理解、汎用的技能)。 ◎コンピュータの基本原則、機能を理解し、安全に利用できる(知識・理解、汎用的技能)。 以上の学習を通して、機器に使われるのではなく、機器を活用する能力・態度を身につける(知識・理解、汎用的技能、態度・志向性)。	1回生以上	後期	○			
3100006A1	食物科学概 論	食物科学の基礎について、栄養学、食品学、調理学、微生物学、安全学等の観点から総合的に学ぶ(知識・理解)。	1回生以上	前期	○			
3100007D1	調理学実習 (D)	実習を通して、以下の2つの目標達成を目指す。 ・食品とその調理性および栄養価に関する基礎的知識を習得できている(知識・理解)。 ・調理理論の実際と基本的技術、美味形成要因とその評価手法を習得できている(汎用的技能)。	1回生以上 (食物栄養 学科)	前期	○			
3100009D1	調理学実習 (E)	基本的な調理操作と食品素材の調理特性について理解し(知識・理解)、中学・高等学校家庭科教員としての基本的スキルを獲得する(汎用的技能)。	1回生以上 (食物栄養 学科以外)	前期	○			
3100008D1	応用調理学 実習(D)	献立作成およびその実習の具体的な実践を重ねることで以下の目標達成を目指す。 ・食事設計に関して必要な知識・技術の向上と応用力・発展力を身につけている(知識・理解、汎用的技能)。	1回生以上 (食物栄養 学科)	後期	○			
3100010D1	応用調理学 実習(E)	様々な場面における献立の組み方と調理操作の流れを理解する(汎用的技能)。また、食卓の整え方を学び、食文化について造詣を深める(知識・理解)。さらに生涯発達と食教育の観点から食生活を設計する姿勢を身につける(態度・志向性)。	1回生以上 (食物栄養 学科以外)	後期	○			
3100011A1	衣環境学概 論	被服の素材、機能、染色、洗濯といった被服学の基本的内容から、新規繊維素材、機能性材料の開発に至るまで、被服学に関する最新の知識を習得する。また、中等家庭科被服学領域を担当する上で必要な衣生活に関する系統的な知識と応用能力を修得し、自ら健康で快適な衣生活を営むことができることを目指す。	1回生以上	後期	○			

3100012D1	被服学実習 I (A)	①被服材料学・管理学・衛生学・意匠学・染色学についての実験・実習を行い、基礎知識を理解する。 ②実験結果から得られたデータをまとめ、実験内容に関わる知識や情報について調べる。 ③衣服について理解を深め、快適な衣生活を送るために必要な能力を身につける。	1回生以上 (食物栄養 学科)	前期	○			
3100014D1	被服学実習 I (B)	①人が装う意味と衣服の機能、その衣服の企画・設計・製作から流通に至るまでの仕組みを理解する。 ②人体形態と衣服の関係、その衣服の立体構成におけるデザイン・設計方法を理解する。 ③教材としての下衣（スカート）の製作から、衣服構成における縫製技法を学ぶ。 ④素材の特性とシルエット形成能の関係を知り、デザインに適した素材選定、取り扱い方法を理解する。 ⑤着装の効果を理解し、心豊かな衣生活創造に向けた知識と能力を習得する。	1回生以上 (生活健康・ 住環境)	前期	○			
3100016D1	被服学実習 I (C)	①被服材料学・管理学・衛生学・意匠学・染色学についての実験・実習を行い、基礎知識を理解する。 ②実験結果から得られたデータをまとめ、実験内容に関わる知識や情報について調べる。 ③衣服について理解を深め、快適な衣生活を送るために必要な能力を身につける。	1回生以上 (生活文化 学科)	前期	○			
3100018D1	被服学実習 I (D)	①人体の形態と被服の関わりを理解する。 ②被服造形のための素材とデザインの基礎的知識を習得する。 ③立体構成の下衣（スカート）製作の基礎的理論を理解し、基礎的技法を習得する。 ④原型の製図とデザイン展開の理論と技法を習得する。	1回生以上 (衣環境学 専攻)	前期	○			
3100013D1	被服学実習 II (A)	①人が装う意味と衣服の機能、その衣服の企画・設計・製作から流通に至るまでの仕組みを理解する。 ②人体形態と衣服の関係、その衣服の立体構成におけるデザイン・設計方法を理解する。 ③教材としての下衣（スカート）の製作から、衣服構成における縫製技法を学ぶ。 ④素材の特性とシルエット形成能の関係を知り、デザインに適した素材選定、取り扱い方法を理解する。 ⑤着装の効果を理解し、心豊かな衣生活創造に向けた知識と能力を習得する。	1回生以上 (食物栄養 学科)	後期	○			
3100015D1	被服学実習 II (B)	①被服材料学・管理学・衛生学・意匠学・染色学についての実験・実習を行い、基礎知識を理解する。 ②実験結果から得られたデータをまとめ、実験内容に関わる知識や情報について調べる。 ③衣服について理解を深め、快適な衣生活を送るために必要な能力を身につける。	1回生以上 (生活健康・ 住環境)	後期	○			

3100017D1	被服学実習Ⅱ (C)	①人が装う意味と衣服の機能、その衣服の企画・設計・製作から流通に至るまでの仕組みを理解する。 ②人体形態と衣服の関係、その衣服の立体構成におけるデザイン・設計方法を理解する。 ③教材としての下衣（スカート）の製作から、衣服構成における縫製技法を学ぶ。 ④素材の特性とシルエット形成能の関係を知り、デザインに適した素材選定、取り扱い方法を理解する。 ⑤着装の効果を理解し、心豊かな衣生活創造に向けた知識と能力を習得する。	1回生以上 (生活文化学科)	後期	○			
3100019D1	被服学実習Ⅱ (D)	①上半身の形態と衣服との関わりを理解する。 ②立体構成の上衣の基礎的知識と製作技法を習得する。 ③上衣の原型とデザインに合わせた展開の技法を習得する。	1回生以上 (衣環境学専攻)	後期	○			
3100020A1	ジェンダー文化論	①ジェンダーのことが意味するものを知る。 ②ジェンダーの視点から社会的な事象を見ることができるようになる。 ③ジェンダー以外にも、年齢、学歴、民族、宗教など、人を分類する基準は複数あることを知る。 ④リプロダクションには国家の利害や権力関係が明瞭に表れることを知る ⑤ジェンダーやセクシュアリティは、文化によって多様であることを知る。	1回生以上 (生活文化学科以外)	前期	○	○		
3100021A2	家族関係論	1. 家族関係の様々な側面・現象を、データや理論枠組みを通じて具体的に考える力をつける。 2. 家族関係に関する諸理論の基本的知識を身につけ、それぞれの長所と限界を考える。 3. 学問が明らかにする家族の性質、特徴、傾向などを知ること、自分自身の家族経験を相対化し、家族に関する科学的探究への意欲を高める。 4. 家族に関する問題の解決の道筋や、家族支援や政策のあり方を考えていくための基本的視点を身につける。	2回生以上 (生活文化学科以外)	前期	○	○		
3100022A2	生活経営学	生活経営の実態について理解し、さらに生活を営んでいくうえで直面する様々な課題に対して主体的に意思決定を行うことのできる能力を養うことを目標とする。	2回生以上 (生活文化学科以外)	前期集中	○	○		
3100023A1	住環境学概論	①住環境学に関する基礎的知識を学習する（知識・理解）。 ②住まい方や住まいの歴史について知識を深める（知識・理解）。 ③住まいおよび居住地の環境や防災、管理について知識を深める（知識・理解）。 ④住まいの計画手法を学習し、住居設計の基礎的技術を習得する（汎用的技能）。 (対応表) B-1 : ◎、C-1 : ○	1回生以上	前期	○			
3100024A1	心身健康学概論Ⅰ	身体健康に関わる諸要因について理解する。生活における健康とは何かを理解し、国の施策、健康増進法や医事法規、生活習慣病や介護予防などについて幅広く健康に関連する事項について関心を喚起し、学ぶ意欲を高める。	1回生以上	前期	○			

3100025A1	心身健康学 概論Ⅱ	心理学の成り立ちについて理解する。こころの健康に関わる諸要因について理解していくために必要となる心理学全般についての基礎的な知識、特に人のこころの基本的な仕組み及び働きを学ぶ。こころについて科学的に捉え、アプローチできるような基本的な態度を身につけることで、こころの健康の専門家としての基本的事項を身につけることをねらいとする。	1回生以上	前期	○			
3100026A1	心身健康学 概論Ⅱ(心理学概論)	心理学の成り立ちについて理解する。こころの健康に関わる諸要因について理解していくために必要となる心理学全般についての基礎的な知識、特に人のこころの基本的な仕組み及び働きを学ぶ。こころについて科学的に捉え、アプローチできるような基本的な態度を身につけることで、こころの健康の専門家としての基本的事項を身につけることをねらいとする。	1回生以上	前期	○			
3250002A1	食物科学概論	食物科学の基礎について、栄養学、食品学、調理学、微生物学、安全学等の観点から総合的に学ぶ(知識・理解)。	1回生以上	前期	○			
3250003D1	調理学実習 (E)	基本的な調理操作と食品素材の調理特性について理解し(知識・理解)、中学・高等学校家庭科教員としての基本的スキルを獲得する(汎用的技能)。	1回生以上 (食物栄養 学科以外)	前期	○			
3250004D1	応用調理学 実習(E)	様々な場面における献立の組み方と調理操作の流れを理解する(汎用的技能)。また、食卓の整え方を学び、食文化について造詣を深める(知識・理解)。さらに生涯発達と食教育の観点から食生活を設計する姿勢を身につける(態度・志向性)。	1回生以上 (食物栄養 学科以外)	後期	○			
3251001A2	ソーシャル リサーチ論	①意義のある社会調査について理解する。 ②問題意識から問い・仮説を作るというプロセスを理解する。 ③調査計画の立て方を身につける。 ④調査票の作成技術を習得する。 ⑤量的データの基本的な集計方法、読み方を身につける。 ⑥質的調査の特徴を体験をしながら理解する。	2回生以上	後期	○	○		
3251003D2	社会統計学	①平均・分散などデータの特徴を表す統計指標について理解すること ②回帰分析など2変数間の関係を把握する統計的手法について理解すること ③サンプルと母集団の関係について理解すること ④統計的仮説検定の手法について理解すること などが目標である。	2回生以上	前期	○	○		
3251005A1	ジェンダー 文化論	①ジェンダーのことが意味するものを知る。 ②ジェンダーの視点から社会的な事象を見ることができるようになる。 ③ジェンダー以外にも、年齢、学歴、民族、宗教など、人を分類する基準は複数あることを知る。 ④リプロダクションには国家の利害や権力関係が明瞭に表れることを知る ⑤ジェンダーやセクシュアリティは、文化によって多様であることを知る。	1回生以上 (生活文化 学科)	前期	○	○		

3251008A2	ジェンダー 法文化史	生活者の視点に立ち、現代日本社会の法秩序がかかえる問題をジェンダー視点（ジェンダー史・ジェンダー法学）から明らかにする。授業で得た知識をもとに、自分で考え、自分の意見を持つことができるようになることが学習目標である。「法」は同時に「権利」でもある。法知識は生活者の権利を守るための有効な手段となろう。公務員や教員をめざす人は、「男女共同参画」の実態と課題について学び、職場でその知識を生かしてもらいたい。また、企業につとめる人は、労働生活と家庭生活をいかに調和させるかにつき、法制度がいかなる配慮をしてきたのか、また今後目指すべき課題は何かを理解してもらいたい。さらに、家庭生活を尊重したい人は、家族を含む親密関係の重要性を改めて認識し、暴力のない親密関係を築くとともに、紛争解決のための基本ルールを知っておいてほしい。	2回生以上	前期	○	○		
3251009A2	ジェンダー と法	生活者の視点に立ち、現代日本社会の法秩序がかかえる問題をジェンダー視点（ジェンダー史・ジェンダー法学）から明らかにする。授業で得た知識をもとに、自分で考え、自分の意見を持つことができるようになることが学習目標である。「法」は同時に「権利」でもある。法知識は生活者の権利を守るための有効な手段となろう。公務員や教員をめざす人は、「男女共同参画」の実態と課題について学び、職場でその知識を生かしてもらいたい。また、企業につとめる人は、労働生活と家庭生活をいかに調和させるかにつき、法制度がいかなる配慮をしてきたのか、また今後目指すべき課題は何かを理解してもらいたい。さらに、家庭生活を尊重したい人は、家族を含む親密関係の重要性を改めて認識し、暴力のない親密関係を築くとともに、紛争解決のための基本ルールを知っておいてほしい。	2回生以上	前期	○	○		
3251010B2	ジェンダー 法文化史演習	本演習では、ジェンダーという視点からわたしたちの日常生活に関わる問題を具体的に取り上げ、みんなで議論をする。それは問題を深く掘り下げるきっかけになると同時に、他者と関わりながら生きていくわたしたちのコミュニケーション力を鍛えることにつながる。本演習を通じて、プレゼン能力を高めるとともに、論理的・説得的な議論の手法を学び、コミュニケーション力を鍛え、面接試験対策や職業生活・社会生活に活かすことをめざす。	2回生以上	後期	○	○		
3251011A2	西洋女性生活史	変わらないもの考えられがちな家族だが、家族の歴史は、その理解のされ方、現実の生活の両面において非常に多様だったことを学ぶ。男女の性差＝ジェンダーは、歴史的な構築物であり、女／男の差異が、近代社会の制度や秩序を形成する基盤となったことを、具体的な歴史事象を通じて理解する。	2回生以上	後期	○	○		
3251012E2	人間関係文化論	①暮らしの中の身近な問題を社会心理学的アプローチにより学ぶ ②他文化に接した時の感情を体験する ③ゲーミングやディスカッションを通じて人間関係のプロセスを理解する ④ディベートによってプレゼンテーションの方法を学ぶ	2回生以上	後期	○	○		

3251013B3	人間関係論演習	①社会心理学の方法論について学び、卒業研究の参考にする。 ②関心のある問題について、自分で調査方法を決め、データを取るという実証的な方法を理解する。 ③基本的な統計的分析方法を学ぶ。 ④調査レポートの書き方を学ぶ。	3回生以上 (生活文化学科)	前期	○	○	○	
3251014B3	人間関係文化論外書講読	①英語の文献に親しむ。 ②英語については文法的知識の習得よりも、速読で大まかに内容をつかむ力を重視する。 ③ディスカッションに積極的に参加し、内容をより深く理解する。 ⑤英語コミュニケーション力を身につける	3回生以上 (生活文化学科)	前期	○	○		
3251022A2	医療社会文化史	生活文化を歴史的に研究する方法への興味と理解を深める。 江戸時代の活字史料を読解する能力を養う。	2回生以上	前期	○	○		
3251023B3	生活文化史演習	・「くずし字」解読能力と、史料読解のための参考資料の使い方を身につける。 ・江戸時代の大衆知のあり方に対する理解を深める。	3回生以上	前期	○	○	○	
3251024A2	女性生活史	日本近世・近代の女性生活史に関する基礎知識を習得するとともに、現代社会の問題を歴史的に考察することの有効性に対する理解を深める。	2回生以上	後期	○	○		
3251025A1	家族システム論	・集団としての家族を対象として展開してきた、家族システム論、家族周期論、家族ストレス論の基本的概念と研究関心の射程を理解する。 ・統計資料や研究事例から、現代家族の動向を読み解くちからを身につける。	1回生以上	後期	○	○		
3251027A2	家族関係論	1. 家族関係の様々な側面・現象を、データや理論枠組みを通じて具体的に考える力をつける。 2. 家族関係に関する諸理論の基本的知識を身につけ、それぞれの長所と限界を考える。 3. 学問が明らかにする家族の性質、特徴、傾向などを知ることで、自分自身の家族経験を相対化し、家族に関する科学的探究への意欲を高める。 4. 家族に関する問題の解決の道筋や、家族支援や政策のあり方を考えていくための基本的視点を身につける。	2回生以上 (生活文化学科)	前期	○	○		
3251028B2	家族関係論演習	①家族・家族関係に関する社会学の基礎概念と主な問題群、その現代的課題を理解する。 ②家族・家族関係に関する社会学の問いの立て方、論証の仕方、研究方法を学ぶ。 ③文献の分析的読解力、調査研究能力、プレゼンテーション能力を向上させる。 ④多元的な知性を育むディスカッションの仕方を実践的に学ぶ。	3回生以上	前期	○	○	○	
3251029A1	家族援助法	①家族の変化を社会変動と関連づけて理解する。 ②家族と家族援助にかかわる制度・政策・実践を知る。 ③家族・家族援助の諸課題を社会システム・政策と関連づけて検討する。	1回生以上	後期	○	○		
3251030A2	社会システム論	1. システムという考え方の基礎を学ぶとともに社会の諸現象をシステムというまなざしから捉え直して理解できるようにすること(知識・理解) 2. 因果関係ではなく相互作用的な考え方を学ぶ(汎用的技能) 3. システムシンキングと呼ばれる問題解決指向をもった方法の習得(汎用的技能)	2回生以上	前期	○	○		

3251031B3	社会システム論演習	事前学習として記してはいないが、レポーター以外も教科書を熟読して、何がわからないのかを明らかにしてくれる。その疑問はレポーターにぶつける。 レポーターは、自分の分だけ読むのではなく、全章を読んで後自分の担当章の位置の意味も含めてレポートすることが求められる。	3回生以上	前期	○	○	○	
3251032A1	食生活文化論	① 現在の食の現状を知り、健康との関連について知識を深める。 ② ライフスタイルの変化と食生活の関係を理解する。 ③ 和食の成立について知る。 ④ 行事儀礼食や郷土食の伝統食について知る。 ⑤ 自身の食生活のあり方を問い、健康で次世代への伝承を考えた食生活を実践する力をつける。	1回生以上	後期	○	○		
3251034A2	生活経済学	①生活の中で利用する物やサービスの背景・経済循環を知ること。 ②営利・非営利組織や公共団体などの役割について知識を習得すること。 ③物やサービスを利用する際の視点を広げること。	2回生以上	後期	○	○		
3251035B3	生活経済学演習	①地域経済についてグローバル化の視点から分析する力を身につけること。 ②テーマに沿った情報を収集・要約し、課題を発見する力を身につけること。 ③プレゼンテーション能力を向上させること。	3回生以上	前期	○	○	○	
3251037A2	食と農の経済学	①日本や世界で起こっている食と農をとりまく現状について知識を習得すること。 ②経済学的視点から世界や日本の「食」について理解すること。 ③生活に不可欠な「食」に関する課題を知り、考えを深めること。	2回生以上	前期	○	○		
3251038A2	消費者法	1 日本の司法制度に関する基本的知識を得る。 2 契約法の仕組みを理解する。 3 製品・サービスの安全規制に関する法を理解する。 4 独占禁止法の仕組みを理解する。 5 消費者トラブル処理の司法・行政システムについて学ぶ。	2回生以上	前期	○	○		
3251039B2	消費者法演習	現代社会に生じる様々な社会的問題と法の関係を幅広い領域にわたって検討し、法の社会的役割について理解を深める。また、リサーチ能力とプレゼンテーション能力の向上を図る。	2回生以上	後期	○	○	○	
3251040A2	生活経営学	生活経営の実態について理解し、さらに生活を営んでいくうえで直面する様々な課題に対して主体的に意思決定を行うことのできる能力を養うことを目標とする。	2回生以上 (生活文化学科)	前期集中	○	○		
3251042A2	ライフスタイルと法	私たちのライフステージの各段階における様々な選択が、いかに法と密接にかかわっているのかという点を理解する。 日本の法制度の全体像についての知識を得る。 市民として生活していく上での実践的知識を身につける。	2回生以上	後期	○	○		
3251043A2	経済原論Ⅰ (ミクロ経済学)	①家計(消費者)、企業(生産者)といった個々の経済主体の行動が、どのようにモデル化され、それによってどのように説明可能なのか、②それら経済主体の消費や生産が、市場価格というシグナルを通じて、行動の相互作用がどのように調整され決定されるのか、③消費や生産が市場での価格メカニズムを通じて決定されることが、なぜ、またどういう意味で望ましいといえるのか、といったミクロ経済学の基本的考え方を理解できるようになる。	2回生以上	前期	○	○		

3251045A2	応用経済分析論	<p>①経済動向に関連する事柄は一見、私たちの生活と関わりのないことのように思えても、実際には、私たちの日常生活と密接に結びついており、私たちの日常生活の多くは経済活動から構成されていることを知る（知識・理解）。</p> <p>②経済の基本的なメカニズムについての理解を深めることは私たちが生活をしていく上で非常に重要であることを知る（総合的な学習経験と創造的思考力）。</p> <p>③経済現象を見抜く視点を身に付けておくことが、身の回りの経済現象を理解し、政策上の対応を図る上で重要であることを知る（態度・志向性）。</p> <p>④社会環境や経済環境の変化に対応して、豊かな生活づくりに役立つ一助とするため、日常生活において接する経済情報をより広く、深く解明するスキルを身に付ける（汎用的スキル）。</p>	2回生以上	後期	○	○		
3251046A2	消費経済分析論	<p>①経済動向に関連する事柄は一見、私たちの生活と関わりのないことのように思えても、実際には、私たちの日常生活と密接に結びついており、私たちの日常生活の多くは経済活動から構成されていることを知る（知識・理解）。</p> <p>②経済の基本的なメカニズムについての理解を深めることは私たちが生活をしていく上で非常に重要であることを知る（総合的な学習経験と創造的思考力）。</p> <p>③経済現象を見抜く視点を身に付けておくことが、身の回りの経済現象を理解し、政策上の対応を図る上で重要であることを知る（態度・志向性）。</p> <p>④社会環境や経済環境の変化に対応して、豊かな生活づくりに役立つ一助とするため、日常生活において接する経済情報をより広く、深く解明するスキルを身に付ける（汎用的スキル）。</p>	2回生以上	後期	○	○		
3251047A1	経済政策	<p>実際の経済活動と経済政策との関連性を理解し、経済学や経済政策を通してこれからの日本経済を概観する力を育む</p>	1回生以上	前期	○	○		
3251049A2	生活文化学各論	<p>①視覚文化研究とは何かを理解する。</p> <p>②基礎的な視覚表象の意味と解釈について学ぶ。</p> <p>③視覚文化を構成する文化構造を理解する。</p> <p>④視覚文化の解釈に挑み、表象を主体的に受容・考察する。</p>	2回生以上	前期	○	○		
3251050A2	視覚文化論	<p>①視覚文化研究とは何かを理解する。</p> <p>②基礎的な視覚表象の意味と解釈について学ぶ。</p> <p>③視覚文化を構成する文化構造を理解する。</p> <p>④視覚文化の解釈に挑み、表象を主体的に受容・考察する。</p>	2回生以上	前期	○	○		
3251051B2	生活文化学各論演習	<p>①視覚文化研究の現代的課題を理解する。</p> <p>②日常生活の中に偏在する視覚表象を意識化する。</p> <p>③視覚表象の分析方法を学ぶ。</p>	2回生以上	後期	○	○	○	
3251052B2	視覚文化論演習	<p>①視覚文化研究の現代的課題を理解する。</p> <p>②日常生活の中に偏在する視覚表象を意識化する。</p> <p>③視覚表象の分析方法を学ぶ。</p>	2回生以上	後期	○	○	○	
3251053A2	服飾とジェンダー	<p>①服飾文化の現代的論点を学ぶ。</p> <p>②衣服の生産と消費をめぐるジェンダーについて考える。</p> <p>③自分の身の回りのファッションとジェンダーについて意識化する。</p>	2回生以上	前期	○	○		

3251054A2	多文化共生論	Students will gain a deeper understanding of culture, various features that affect it, and multiculturalism and diversity in Japanese society and abroad. In addition, students will learn to analyze how culture influences our national laws and our interpretations of them. Completion of this course will also serve to enhance critical thinking and broaden awareness about alternative methods for addressing social issues and the influence women have on public discourse, politics, and the economy. Finally, as all assignments will be in English, students will improve their English vocabulary, reading, writing, and conversation skills.	2回生以上	後期	○	○		
3251055B1	生活文化学の方法	問題への接近方法/考え方を身につける	1回生以上	後期	○	○	○	
3250001A1	生活文化学入門	①生活文化学科の専門領域を理解する。 ②主体的に学ぶ習慣を身に付ける ③PBLやディベートを通して、リサーチの方法、プレゼンテーションの方法、論理的思考力を学ぶ ④他人との意見交換ができるようになる。	1回生以上	前期	○	○		○
3251057B3	生活文化学演習	具体的な生活文化学研究の事例から、 ①研究課題の設定方法の習得 ②課題に沿った研究方法の習得 ③問題発見と解決の能力の深化。 ④自分の関心を見出し発展させる能力の開発。	3回生以上 (生活文化学科)	後期	○	○	○	○
3251058B4	生活文化学卒業演習Ⅰ	①研究課題の設定方法を習得する。 ②課題に沿った研究方法を習得する。 ③問題発見と解決の能力を深化する。 ④各分野の専門的知識を取得する。 ⑤論文の構成法、執筆の方法を取得する。	4回生(生活文化学科)	前期	○	○	○	○
3251059B4	生活文化学卒業演習Ⅱ	①研究課題の設定方法を習得する。 ②課題に沿った研究方法を習得する。 ③問題発見と解決の能力を深化する。 ④各分野の専門的知識を取得する。 ⑤論文の構成法、執筆の方法を取得する。	4回生(生活文化学科)	後期	○	○	○	○
3251060F4	卒業研究Ⅰ	①研究課題の設定方法を習得する。 ②課題に沿った研究方法を習得する。 ③問題発見と解決の能力を深化する。 ④各分野の専門的知識を取得する。 ⑤論文の構成法、執筆の方法を取得する。	4回生(生活文化学科)	前期	○	○	○	○
3251061F4	卒業研究Ⅱ	①研究課題の設定方法を習得する。 ②課題に沿った研究方法を習得する。 ③問題発見と解決の能力を深化する。 ④各分野の専門的知識を取得する。 ⑤論文の構成法、執筆の方法を取得する。	4回生(生活文化学科)	後期	○	○	○	○
3251062D3	インターンシップ実習(生活文化学)	具体的な学習内容及び実施内容の詳細は受入機関によるが、教育目標は、企業等におけるさまざまな実務を学習経験することにより、社会に即戦力として貢献できるような能力・応用力を養成することである。	3回生以上	集中				○